

燈籠火袋羽目 国宝

これらの銅合金のパネルは、816年につくられた南円堂の燈籠につけられていたものであり、日本の偉大な学僧であり、密教の一派、真言宗の創始者として知られる空海（弘法大師、774～835年）が書いた銘文が刻まれている。もともとは6枚のパネルが燈籠についていたが、現存するのは4枚だけである。

銘文そのものは、衆生に光を与えるという概念を取り扱っている。書は、1行に9文字が7行あり、平安時代（794～1185年）の偉大な書家「三筆」の一人である橘逸勢（782～844年）の筆になるものである。空海も三筆の一人であり、この銘文は三筆のうちの2人が共作した唯一の現存の作品である。